

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年7月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200445
法人名	医療法人 杏政会
事業所名	グループホーム そら
所在地	鹿児島県薩摩川内市横馬場町8番11号 (電話) 0996-22-6800
自己評価作成日	令和元年6月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和元年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症専門の施設として安全・安心な施設作りを目指し、日々取り組んでいます。職員は利用者様へゆっくりと一緒に、笑顔あふれる生活を提供しています。利用者様とのコミュニケーションとして、毎日、利用者様との握手での挨拶や化粧に取り組み、職員と利用者様間だけでなく、利用者同士の会話が増え、明るく笑顔が絶えません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は隣接して同法人の介護老人保健施設や小規模多機能ホーム、デイサービスなどの事業所があり、緊急時の対応や災害時の相互協力関係も築かれている。
- ・協力医療機関との24時間対応の連携体制が構築されており、職員看護師の健康管理と夜間緊急時には併設施設の看護師との連携も図られ、適切な医療が受けられるよう支援している。
- ・地域自治会に加入し地域行事にも積極的に参加している。地元商店街に買い物に出かけたり、認知症カフェや認知症サポーター養成講座を開催するなど、地域や市町村との良好な関係が築かれている。
- ・管理者は職員が働きやすい環境作りに配慮し、職員育成にも力を入れ、資格取得に向けた支援や各種研修等への出席も奨励している。職員間のコミュニケーションも良く離職者も少ない。
- ・利用者との日々の関わりを大切に、笑顔でその人らしい生活ができるように支援している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	運営理念は平成24年、職員で話し合っ て決めたもので、現在も朝の申し送り時に読み上げている。	職員全員で話しあった事業所独自の理念で玄関やホールに掲示している。朝礼時に唱和し、意識づけしている。職員会議等で振り返り、理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会長と協議の上（当時の横馬場自治会）代表者名で自治会に加入している。商店に利用者と訪れたり、ボランティアも積極的に受け入れている。	地域の自治会に加入している。地域行事への見物や買い物・散歩時には会話を交わしている。託児所との交流や短大生の実習、ボランティアの受け入れも行っている。認知症カフェや認知症サポーター養成講座を開催するなど、地域の一員として、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	法人の一員として、認知症カフェや認知症サポーター養成講座等を開催し、認知症の地域理解への働きかけを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には管理者、法人代表、介護支援専門員、家族、市の担当者、消防車職員、地域住民の方の参加を頂いている。会議で出た意見等は今後の運営・サービス改善に生かしている。	会議は定期的開催している。事業所の状況やヒヤリハット、事故報告、外部評価の報告などを行い、参加者からも多くの助言や提案がある。出された意見を話し合い、託児所との交流や外出支援の際は、職員も服装を整えての外出にするなど、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者に運営推進会議出席を頂く他、現場の実情などを伝え、助言いただく機会を作っている。（消防職員からの助言等）	市担当者とは、窓口に出向いたり、電話やFAXで事業所の実情や取り組みを伝え、連携を深めている。運営推進会議を通して協力関係もできている。サポーター養成講座を行ったり、市主催の研修会にも積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年4回「身体拘束廃止委員会」を開催し、拘束ゼロ維持に向け努めている。外へ出て行こうとする雰囲気を感じたら、一緒に外出に付添う等行っている。	身体拘束廃止委員会で事例や課題に基づいて、年4回勉強会を実施し、職員の共通認識を図っている。言葉遣いも含めて、身体拘束ゼロに取り組んでいる。日中の玄関の施錠はせず、外出希望を察知したら、職員間の連携で安全な暮らしを支援している。同法人の他事業所からの見守りもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法については毎年、法人共同の勉強会の他、身体拘束廃止委員会でも学習する機会を作り、理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度や権利擁護については、県グループホーム連絡協議会の資料を使い、勉強会を開催予定である。（令和元年12月）		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時や介護保険改正、加算算定時、事前に管理者、介護支援専門員より説明を行っている。利用希望の方や家族には来訪を勧め、雰囲気味わって頂いてからとお伝えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設玄関の意見箱の設置、運営推進会議の家族参加や利用者・家族アンケートの実施を通して意見を把握し、サービス改善に生かしている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き対応している。家族からは面会や家族会、電話、運営推進会議が意見を聞く良い機会となっている。隔月の「グループホームそらだより」で現状報告もしている。出された要望を職員で話し合い、喫茶外出などに取り入れ、外出の機会に活かしている。意見箱も設置している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者・代表者が出席する運営会議、管理者・職員が出席する全体ミーティングを毎月実施し、職員提案や検討が行える体制を整えている。	職員会議やミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。職員の提案を検討してケアの統一に活かしている。毎月スキルアップ勉強会を実施し、資格取得の支援もしている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業務は原則担当制としているが、業務量が過多にならないよう業務分担の配慮をする他、研修や資格取得の支援、資格手当の支給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所としてスキルアップ勉強会を毎月行い、法人としても勉強会や事例発表会を行っている。行政やGH、認知症関連の研修会への参加機会を設け職員のケアの質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、系列や近隣のGH、在宅介護事業所との連携や地域のGH協議会加入等により交流や勉強会の参加を通じて質の向上に繋げる支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めての環境における生活に対する不安は強いものである事を全職員が理解しており、ご本人が利用される前に出来るだけ多く来訪いただけるよう、ご家族に声掛けしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期利用におけるご家族からの情報の重要性を全職員が理解しており、入居後もご本人とご家族との良好な関係が保てるよう積極的に相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在、初期相談は法人の支援相談窓口に一本化されているが、相談時、入居の可否に関わらず、その時必要と判断したサービスの紹介を行い、問題解決への支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各ご利用者の状況に応じて家事作業や趣味活動等にされており、その際、職員も一緒に参加し、教えて頂く態度で対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者にとって家族は重要な存在として扱い、生活状況について面会時や電話連絡時、広報誌や介護計画説明時等にお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地域へのドライブ、散歩、神社参拝、買い物へ出掛けたり、友人・知人の方の訪問の機会を作るなどご家族の協力をいただきながらなじみの関係が続くよう支援している。	家族や親戚・知人の訪問を奨励し、一緒にお茶を飲んだりしている。買い物の支援、電話の取次ぎなども行って、継続的關係が途切れないよう働きかけている。家族の協力で外出や外食、墓参の際などにも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的にご利用者に会話があり、お互いを認め、気遣い、手助けするなど支え合う関係が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気軽に訪問いただけるよう声を掛けている。必要に応じて退居後の相談等に気軽に応じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の関わりの中から、一人ひとりの思いや意向や個性として言葉や表情、行動から把握し、申し送りやケアカンファレンスで情報を共有、検討し、ケアの統一を実践している。	ケアカンファレンスでの情報を共有し、日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている、困難な場合は、家族の協力も得て、利用者の視点に立って、本人中心の支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者との会話での情報の他、ご家族や友人、知人等プライバシーに配慮しつつ収集し、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の日々の変化に対応出来る様、個人録や申し送りノート、業務日誌等の文書、ケアカンファレンスや申し送りの場を活用し、共有に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、家族、担当職員・介護支援専門員等を含めた職員と必要に応じ医師や併施設設専門職（歯科衛生士、作業療法士、管理栄養士等）の意見を入れながら行い、承諾を経て決定している。	本人・家族の意向を確認し、関係者や主治医の意見も取り入れ、個々に応じた介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に実施し、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個人録や所定の記録用紙を活用している。毎日の申し送りの場やケアカンファレンスにて検討・共有し介護計画見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の専門職等多様な事業所のマンパワーを生かし、専門職からのアドバイスや事業者間の交流などその時のご利用者のケアの多様性に役立てている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	詩吟ボランティアの方に来訪いただいての交流や商店への買い物、祭りの参加等行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医や専門医の選定にあたっては、家族と検討し、その時の状況に合わせて、協力医療機関の協力も頂きつつ行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関からの2週間に1回の往診、必要に応じて歯科も往診対応である。他科受診など、家族の協力を得て支援している。同法人の隣接事業所の看護師との連携も図られ、緊急時の対応などに適切な医療が受けられるよう支援している。受診結果は家族と共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成30年11月より看護職員が入職し、主治医等の連携や利用者の健康管理のサポートを行っている。夜間や緊急時時には併設施設の看護師対応いただけるような体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、努めて病院に出向いたり、電話等での情報収集等を行い、情報提供・共有が図られている。退院後の生活の不安が少なくなるよう、退院時の情報収集、法人としての専門職と連携した判断の体制作りを進めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・ご家族に対し、入居時より当事業所で対応可能な事、出来ない事を説明している他、早い段階から個別に話し合い、入居継続可否の判断は、主治医や協力医療機関の医師にお願いしている。	契約時に、重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し、支援できる範囲を伝えて、同意を得ている。状況変化に伴い主治医の意見のもと、家族と話し合いを重ね、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や体調の急変とその対処法について法人共同の勉強会を開催している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同一敷地内の併設施設と共同で、避難誘導・消火訓練、夜間呼び出し訓練を行っている。運営推進会議で消防職員からアドバイスを頂く他、災害時に備え飲料水や食料を備蓄している。	同法人の併設事業所と共同で実施している。消防署立会いのもと年1回の避難訓練に加えて、自主で年2回避難訓練や消火訓練、夜間呼び出し訓練等を実施している。スプリンクラーや緊急通報装置を設置している。定期的に設備点検も実施し、地域との協力関係もできている。水・米・レトルト飯・インスタント食品などの備蓄やカセットコンロもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人として個人情報保護・尊厳保持に努めている。（情報公開範囲の事前確認、勉強会等）	定期的実施される法人研修に参加した職員が事業所での職員会議等で伝達し、職員の資質向上に向けて取り組んでいる。人生の先輩としての誇りやプライバシーを重んじ言葉遣いやケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者にその都度、希望や選択の声掛けを行い、本人の意思、希望を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活歴や好み、体調等を把握し、居室でゆっくり過ごす、日課活動や趣味等に参加するなど個々人のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整容（化粧）の時間を設けたり、服装希望（選択）などその人らしさを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、食事、お茶入れ、後片づけ等職員と利用者が一緒に行っている。ケーキ作りなど楽しんで頂く工夫をしている。	嗜好に配慮し、旬の食材による献立で、法人の歯科衛生士等の助言も得て個々に応じた食事形態を工夫している。おにぎり作りや盛り付け・下膳などを職員と一緒にしたりもしている。誕生祝い・ケーキ作り・季節の行事食など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の管理栄養士が作成し、法人の歯科衛生士、言語療法士の助言で適切な形態を決めている。食事・水分摂取量は表に記載し、量の確保に向け嗜好品を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生マニュアルに沿って、食前の口腔体操、歯科衛生士による口腔チェックを定期的に行っている。必要時は歯科治療に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を記録して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、それに応じた声掛け、誘導介助、排泄方法を決めている。トイレ等排泄を促し、失禁予防に努めている。	排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけし、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。夜間にポータブルトイレ利用者もいる。排泄に改善がみられた事例がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に記載し、排泄状況の把握に努めている。便秘予防になるよう、毎日の運動の実施、水分摂取量の確保に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ご利用者の体調や希望に合わせた援助が来ているが、入浴を好まない入居者が長く入らない状況も発生した。	基本的には週3回、午前中になっている。個々人の体調や希望にそって柔軟に対応している。入浴日以外でもシャワー浴や清拭を行い、清潔保持に努め、保湿ローションも使用している。入浴を拒む利用者には声かけや時間調整など、職員間で連携して状況改善に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠確保の為、夜間の排泄支援の方法（時間・回数等）は利用者毎に変更したり、必要に応じて昼寝を取っていただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が主治医との連携を取り職員に伝達している。服薬準備は担当を決め、与薬時は誤薬防止の為、声出し確認して行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれが、得意な事を把握し、日々取り組む機会が持てるよう努めている。散歩や歌、壁画、生け花など季節感を感じて頂けるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は希望に合わせ、戸外へ出て敷地内の散歩を行っている。ご家族との外出機会をご家族へお願いし、外出着を一種に選ぶなど支援を行っている。	日常的には周辺の散歩や利用者の希望に合わせて買い物に出かけている。年間計画を立て、初詣や花見・紅葉狩り・ドライブ・ソーメン流しに出かけるなど、季節を感じて楽しめるよう支援している。家族の協力で外泊や外出・外食・墓参などの際にも支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の金銭管理方法は事前にご本人やご家族と話し合っており、個別に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話が掛けられる場合は支援しているが、利用者の状況に応じて、来訪をお願いしたり、手紙のやりとりをお願いしたりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の花を飾ったり、ご利用者の製作した作品を飾るなど生活感を演出している。温度・湿度の確認、空調や換気の調整をして、ご利用者へ確認しながら快適に過ごせるよう心掛けている。	玄関にはスロープを設置し共用空間は開放感があり、採光や換気・温度・湿度に配慮し清潔である。食堂横にはウッドデッキもある。ホールには利用者の作品や行事の写真、季節を大事にした飾りつけを行い、ゆったりしたソファで居心地よく過ごせるよう工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではテレビを見る方、読書や新聞を読む方、箱折りや裁縫する方、ご利用者同士おしゃべりする方など一人ひとりが思いおもいの場所で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者やご家族に馴染みの家具、生活用品等の持ち込みをお願いしている。居室には、家族写真、趣味やプレゼントの品が飾られている。	居室はエアコンが備え付けられ、ベッドや寝具等は原則家族持ち込みである。タンスやテレビ・毛布・家族の写真・ぬいぐるみなど、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮している。センサーやオンコールでの対応もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出入り口、非常口にスロープがあり、館内は手すりやウッドデッキを設置し、身体機能が低下された方にも快適に過ごせる工夫がある他、認識しやすい表札の工夫もなされている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない